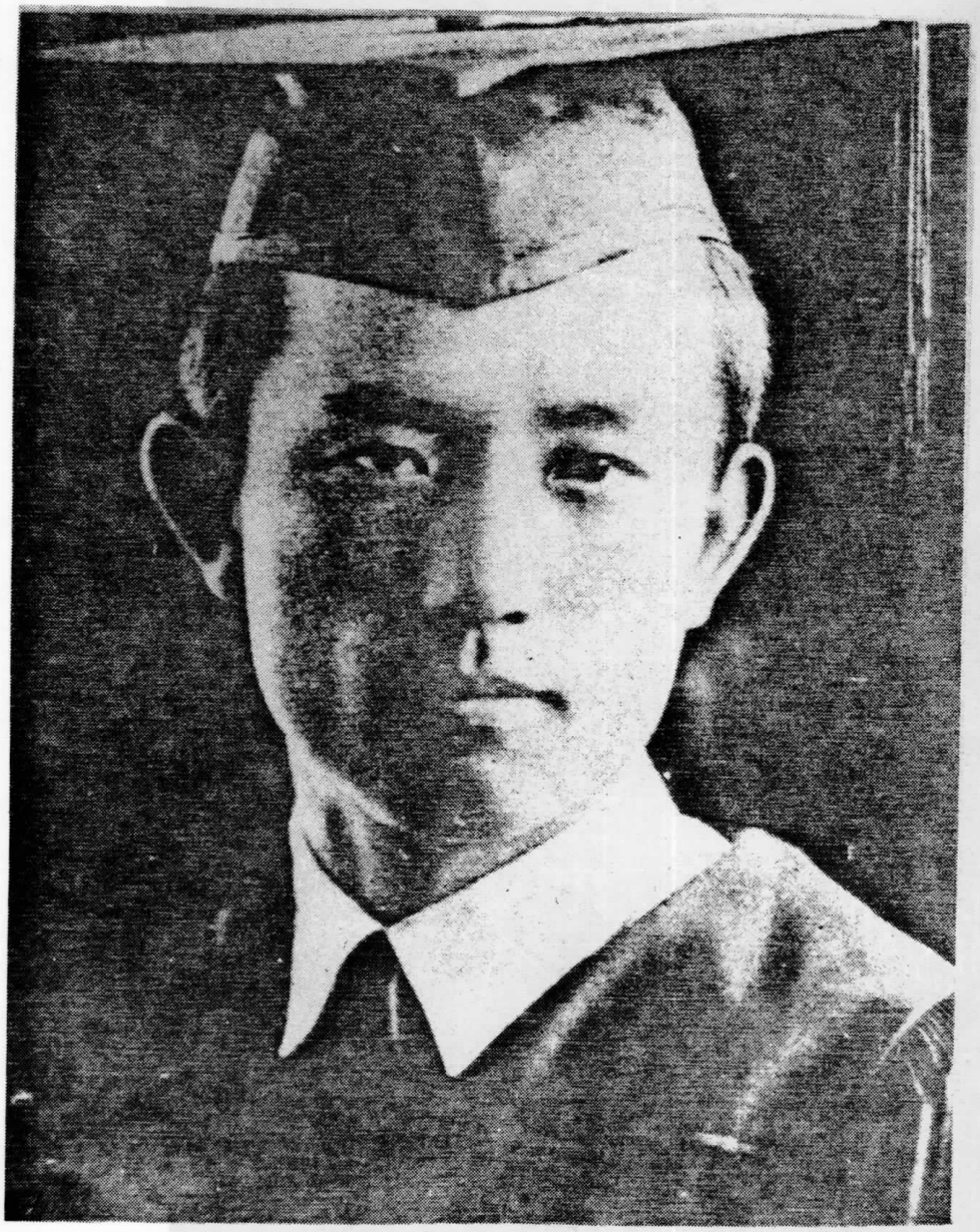
尹東柱詩集

空と風と星と詩

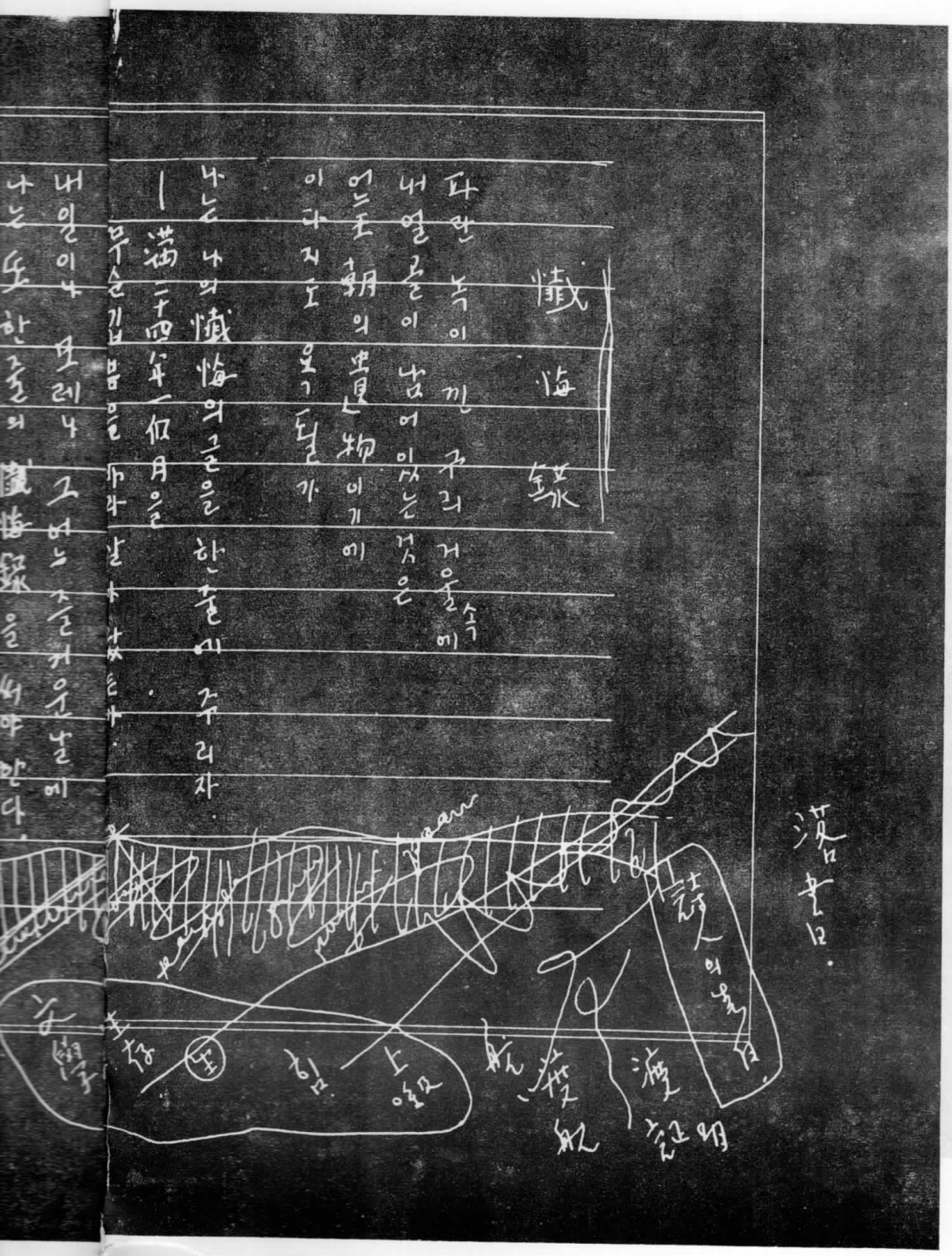
尹東柱詩集
空と風と星と詩

空と風と星と詩

하늘과바람과별과詩



延禧専門学校卒業時の尹東柱



一九四二年一月二四日　尹東柱のノートより

내일이나 모레나 그러는 즐거운 날에
나는 또 한 줄의 懺悔錄을 써야 한다.
그때 그 검은 나이에
왜 그런 부끄런 흠白을 했든가

밤이면 밤마다 나의 거울을
손바닥으로 발바닥을 닦어 보자.

그러면 어느 隕石 밑으로 흘러가는
슬픈 사람의 뒷모양이
거울 속에 나타나온다

一月二十四日

目次

序詩 6
自画像 8
少年 10
雪のふる地図 12
帰りみる夜 14
病院 16
新たな道 18
看板のない街 20
太初の朝 23
再び 太初の朝 25
夜明けがくるまで 27
おそろしい時間 29
十字架 31

風が吹き 33
悲しい一族 35
眼をとじてゆく 37
もうひとつの故郷 39
道 42
星をかぞえる夜 45
白い影 50
いとしい追憶 53
流れる街 56
たやすく書けた詩 58
春 62
年譜 64
解説 ことばの栄光 金時鐘 66
あとがき 71

装幀 정 창헌

凡例

○発音記号の上の「ー」は激音（息を強く出す）

○発音記号の上の「・」は濃音（息をつめて出す）

○「ö」は、オを発音する時のように口をすぼめてェと発音する単母音。

○「ü」は、唇に全く力を入れず口をほんの少しだけあけて、舌をウの位置におき声帯を振動させる単母音。

하늘과 바람과 별과 詩

尹東柱詩集

序　詩

逝く日まで空を見上げ
一点も恥じないことを、
葉裏に起こる風にも
私は苦しんでいた。
星を歌う心で
すべての去り逝くものを　慈まねば
そして　私に示された道を
歩んでゆこう。

今夜も星が　風に吹かれている。

（一九四一・一一・二〇）

序 詩

죽는 날까지 하늘을 우러러
한점 부끄럼이 없기를、
잎새에 이는 바람에도
나는 괴로와했다。
별을 노래하는 마음으로
모든 죽어가는 것을 사랑해야지
그리고 나한테 주어진 길을
걸어가야겠다。

오늘밤에도 별이 바람에 스치운다。

〈一九四一・一一・二〇〉

Sə:si

tʃunnün nalkadʒi hanürül urərə
handʒəm pukürəmi ə:pkirül,
ipsæe inün paramedo
nanün körowahæta.
pyə:rül norsehanün maümüro
mo:dün tʃugəganün gəsül saraŋhæyadʒi
kürigo nahanta tʃuədʒin kirül
kərəgayageta.

onülpamedo pyə:ri parame sütʃiunda.

自画像

山すそを巡り　小田(おだ)のそば　ポツンとはなれた井戸をひとり訪れて　そっとのぞいて見ます。

井戸の中には　月が明るく　雲が流れ　空が広がり　青い風が吹き　秋があります。

そして　ひとりの男がいます。
どうしたわけか　その男が憎くて帰ります。
帰りながら考えると　その男がかわいそうになります。
再び行ってのぞいて見ると　男はそのままいます。
また　その男が憎くて帰ります。
帰りながら考えると　その男がいとおしくなります。

井戸の中には　月が明るく　雲が流れ　空が広がり　青い風が吹き　秋があり
追憶のように　男がいます。

（一九三九・九）

自畫像

산모퉁이를 돌아 논가 외딴우물을 홀로 찾아가선
가만히 들여다 봅니다。

우물속에는 달이 밝고 구름이 흐르고 하늘이
펼치고 파아란 바람이 불고 가을이 있읍니다。

그리고 한 사나이가 있읍니다。
어쩐지 그 사나이가 미워져 돌아갑니다。

돌아가다 생각하니 그 사나이가 가엾어집니다。
도로가 들여다 보니 사나이는 그대로 있읍니다。

다시 그 사나이가 미워져 돌아갑니다。
돌아가다 생각하니 그 사나이가 그리워집니다。

우물속에는 달이 밝고 구름이 흐르고 하늘이
펼치고 파아란 바람이 불고 가을이 있고
追憶처럼 사나이가 있읍니다。

〈一九三九・九・〉

tʃa hwa: saŋ

sanmoʈuŋirül tora ronga: ötanumurül holro tʃadʒagasən
kam:nhi türyəda pomnida.

umulso:genün tari pako kurümi hürügo hanüri
pyəltʃigo pa:ran parami pu:lgo kaüri isümnida.

kürigo han sanaiga isümnida.
ətʃəndʒi kü sanaiga miwədʒə toragamnida.

toragada sæŋgak̄ani kü sanaiga ka:yəpsə dʒimnida.
toroga türyəda boni sanainün küdæro isümnida.

tasi kü sanaiga miwədʒə toragamnida.
toragada sæŋgak̄ani kü sanaiga küriwədʒimnida.

umulsogenün tari pako kurümi hürügo hanüri
pyəltʃigo pa:ran parami pu:lgo kaüri iko
tʃuək tʃərəm sanaiga isümnida.

少　年

あちらこちらから　紅葉のような悲しい秋が　はらはら落ちる。紅葉の落ちたあとごとに　春は用意され　木々の枝の上に空が広がっている。静かに　空をうかがい見ようとすると　眉に青い絵の具がつく。両手であたたかい頬をなでて見ると　手のひらにも青い絵の具がくっついてしまう。再び　手のひらをのぞきこむ。掌の筋には　澄んだ川が流れ、澄んだ川が流れ、川の中には　愛のように悲しい顔ー美しい順伊（スーニー）の顔がうつる。少年はうっとりと眼をとじてみる。それでも　澄んだ川は流れ　愛のように悲しい顔ー美しい順伊（スーニー）の顔はうつる。

（一九三九）

少年

여기저기서 단풍잎 같은 슬픈가을이 뚝뚝 떨어진다。단풍잎 떨어져 나온 자리마다 볶을 마련해 놓고 나무가지 우에 하늘이 펼쳐있다。가만히 하늘을 들어다 보려면 눈섭에 파란 물감이 든다。두 손으로 따뜻한 볼을 쏫어보면 손바닥에도 파란 물감이 묻어난다。다시 손바닥을 들여다 본다。손금에는 맑은 강물이 흐르고、맑은 강물이 흐르고、강물속에는 사랑처럼 슬픈얼골——아름다운 順伊의 얼골이 어린다。少年은 황홀히 눈을 감어 본다。그래도 맑은 강물은 홀리 사랑처럼 슬픈얼골——아름다운 順伊의 얼골은 어린다。

〈一九三九·〉

So: nyən

yəgítʃəgisə tanpūnjip katün sülpün kaüri tuktuk tərədʒinda. tanpūnjip tərədʒə naontʃarimada pomül maryənhæ noko namukadʒi ue hanüri pyəltʃəita. ka:mani hanürül türyəda boryəmyən nunsə:be pa:ran mulgami tünda. tu: sonüro tatütan borül süsəbomyən sonpadagedo pa:ran mulgami mudənanda. tasi sonpadagül türyəda bonda. songümenün malgün kaŋmuri hürügo, malgün kaŋmuri hürügo, kaŋmul so:genün saraŋtʃərəm sülpünəlgol — arümdaun su:nie əlgori ərinda. so:nyənün hwaŋhori nunül ka:mə bonda. Kürədo malgün kaŋmurün hülri saraŋtʃərəm sülpünəlgol — arümdaun su:nie əlgorün ərinda.

雪のふる地図

順伊が旅立った朝に　音もなく牡丹雪が降って、悲しみのように　窓の外にはるか遠くまで拡げられた地図の上に降りつもる。部屋の中にもどって見ても　何もない。壁と天井がとても白く、部屋の中にも雪が降っているのだろうか。本当に君は　失ってしまった歴史のようにふわふわと行くものか、旅立つ前に話すことがあったのに手紙を書いても君のゆき先がわからない　どこの街、どこの村、どこの屋根の下、君は私の心の中にのみ残っているものか、君の小さな足あとに雪がしきりに降りつもり　ついてゆく方途もない。雪が溶ければ　足あとごとに花が咲くのだから　花のすきまに足あとをたずね出で立てば　一年十二ヶ月のように私の心には雪が降るだろう。

（一九四一・三・一一）

눈오는 地圖

順伊가 떠난다는 아침에 말못할 마음으로 함박눈이 나려、슬픈것처럼 窓밖에 아득히 깔린 地圖우에 덮인다。房안을 돌아다 보아야 아무도 없다。壁과 天井이 하얗다。房안에까지 눈이 나리는 것일까、정말 너는 잃어버린 歷史처럼 훌훌이 가는것이냐、떠나기前에 일러둘 말이 있든것을 편지를 써서도 네가 가는 곳을 몰라 어느 거리、어느 마을、어느 지붕밑、너는 내 마음속에만 남아 있는것이냐、네 쪼고만 발자욱을 눈이 자꼬 나려 덮여 따라 갈수도 없다。눈이 녹으면 남은 발자욱자리마다 꽃이 피리니 꽃사이로 발자욱을 찾어 나서면 一年 열두달 하냥 내마음에는 눈이 나리리라。

〈一九四一・三・一二〉

nu:nonün tʃido

su:niga t̀ənandanün at̄ʃime ma:lmot̄al maümüro hambaŋnu:ni naryə, sülp̄üngət̄ʃərəm t̄ʃəŋbak̀e adü:k̄i k̀alrin tʃ́idoue təp̄inda. paŋanül torada boaya a:mdo ə:pt̀a. pyək̀wa t̄ʃəndʒəni ha:yat̄a. paŋanek̀adʒi nu:ni narinün gəsilk̀a, tʃə:ŋ mal nənün iləbərin yəkś̀a:tʃərəm ho:lho:ri kanüngəsinya, t̀ənagidʒəne ilrədul ma:ri itüngəsül p̄yə:ndʒirül səsədo ne:ga kanün gəsül molra ənü kəri, ənü maül, ənü tʃibuŋmit, nənün nə̀ maümso:geman nama inüngəsinya, ne t̀ʃ́ogoman paltʃ́augül nu:ni tʃak̀o naryə-təpyə t̀ara galś̀udo ə:pta. nu:ni nogümyən namün paltʃ́aukt̀ʃarimada k̀ot̄ʃi p̄irini kot̀ʃairo paltʃ́augül tʃadʒə nasəmyən ilnyən yəldu:tal hanyaŋ nə̀maümenün nu:ni nariri̇ra.

帰りみる夜

世間から逃れるように　いま　私は狭い部屋に帰ってきて
灯を消します。灯をつけておくのは　あまりにも疲れること
です。それは昼の延長ですので――

いま　窓を開け空気をいれ替えねばならないのに　外を静
かに見ますと部屋の中のように暗く　たしかに俗な世間の
ようで　雨に打たれてきた道がそのまま雨に濡れています。

一日の鬱憤をぬぐうことなく静かに目を閉じれば　心の中
にただよう声、いま、思想がリンゴのようにおのずから熟
してゆきます。

（一九四一・六）

돌아와 보는 밤

세상으로부터 돌아오듯이 이게 내 좁은 방에 돌아와
불을 끄웁니다。 불을 켜 두는 것은 너무나 피로롭은
일이옵니다。 그것은 낮의 延長이옵기에——

이제 窓을 열어 空氣를 바꾸어 들여야 할텐데 밖을 가
만히 내다 보아야 房안과같이 어두어 꼭 세상같은데 비
를 맞고 오든 길이 그대로 비속에 젖어 있사옵니다。

하로의 울분을 씻을바 없어 가만히 눈을 감으면 마음
속으로 흐르는 소리、이제、思想이 능금처럼 저절로 익
어 가옵니다。

〈一九四一・六・〉

torawa bonün pam

se:saŋürobutə toraodüsi idʒe næ tʃobün paŋe torawa-
burül küomnida. purül kyə tunün gəsün nəmuna pirorobün
i:riomnida. Kügəsün nadʒe yəndʒaŋiopkie —

idʒe tʃaŋül yərə koŋgirül pakuə türyəya haltende pakül ka:-
mani næ:da boaya paŋangwakati əduə kok se:saŋkatünde pi-
rül matko odün kiri kudæro piso:ge tʃədʒə isaomnida.

ha:roe ulbunül sisülba ə:psə kama:ni nunül ka:mümyən maüm-
so:güro hürünün sori, idʒe, sasaŋi nüŋgümtʃərəm tʃədʒəlro ig-
ə gaomnida.

病院

アンズの木陰で顔をおおい、病院の裏庭に横たわって、娘が白衣の下に真っ白な足をなげ出して　日光浴をしている。半日がかたむいても　胸を病んでいるこの娘に会いにくるもの、蝶一匹すらない。悲しげもないアンズの枝には風さえない。

私も　わからない痛みを久しくこらえて　初めてここへたずねてきた。けれども　年おいた医師は青年の病をわからない。私には病がないと言う。このひどい試練、このひどい疲労、私は怒ることさえできない。

娘はそこから立ちあがり　襟をきちんと合わせて　花壇から金盞花一株を摘み　胸にさして病室へかえる。私は　その娘の健康が――いや　私の健康もすみやかに回復することを願いながら　その人が寝ていたところに横になる。

（一九四〇・一二）

病院

살구나무 그늘로 얼골을 가리고、病院뒤뜰에 누어、젊은 女子가 흰옷 아래로 하얀 다리를 드러내 놓고 日光浴을 한다。한나절이 기울도록 가슴을 앓는다는 이 女子를 찾어오는 이、나비 한마리도 없다。슬프지도 않은 살구나무가지에는 바람조차 없다。

나도 모를 아픔을 오래 참다 처음으로 이곳에 찾어왔다。그러나 나의 늙은 의사는 젊은이의 病을 모른다。나한테는 病이 없다고 한다。이 지나친 試鍊、이 지나친 疲勞、나는 성내서는 안된다。

女子는 자리에서 일어나 옷깃을 여미고 花壇에서 金盞花 한포기를 따 가슴에 꽂고 病室안으로 사라진다。나는 그 女子의 健康이—아니 내 健康도 速히 回復되기를 바라며 그가 누었든 자리에 누어본다。

〈一九四〇・一二・〉

pyə:ŋ wən

salgunamu künülro əlgorül karigo, pyə:ŋwəntwi:türe, tʃəlmün yədʒaga hinot arərro ha:yan tarirül türənæ: noko ilgwanyogül handa. hannadʒəri kiuldorok kasümül əlnündanün i yədʒarül tʃadʒəonün i, nabi hanmarido ə:pta. sülpüdʒido anün salgunamukadʒienün paramtʃotʃa ə:pta.

nado morül apümül orə tʃa:mda tʃəümüro igose tʃadʒəwata. kürəna nae nülgün ïsanün tʃəlmünie pyə:ŋül moründa. nahantenün pyə:ŋi ə:ptago handa. i tʃinatʃin si:ryən, i tʃinatʃin piro, nanün sə:ŋnæ:sənün a:ntönda.

yədʒanün tʃariesə irəna otkisül yəmigo hwadanesə kümdʒanhwa hanpogirül ta kasüme koko pyə:ŋsiranüro saradʒinda. nanün kü yədʒae kə:ngaŋi — ani næ kə:ngaŋdo soki höboktögiral paramyə küga nuətün tʃarie nuəbonda.

新たな道

川を渡り　林へ
峠を越え　村へ

きのうもゆき　きょうも行こう
私の道　新たな道

タンポポが咲き　カササギが飛び
娘がとおり過ぎ　風が起こる

私の道はいつも新たな道
きょうも……あすも……

川を渡り　林へ
峠を越え　村へ

（一九三八・五・一〇）

새로운 길

내를 건너서 숲으로
고개를 넘어서 마을로

어제도 가고 오늘도 갈
나의 길 새로운 길

문들레가 피고 까치가 날고
아가씨가 지나고 바람이 일고

나의 길은 언제나 새로운 길
오늘도…… 내일도……

내를 건너서 숲으로
고개를 넘어서 마을로

〈一九三八・五・一〇〉

Særoun kil

næ:rül kə:nnəsə supüro
kogærül nəməsə maülro

ədʒedo kago onüldo kal
nae kil særoun kil

mundülrega pigo ka:tʃiga nalgo
agasiga tʃinago parami i:lgo

nae kirün ənd̑ʒena særoun kil
onüldo …… næildo……

næ:rül kə:nnəsə supuro
kogærül nəməsə maülro

看板のない街

停車場のプラットホームへ
降りたとき　誰もいなくて、

すべて旅客たちのみ、
旅客のような人々のみ、

家々ごとに看板がなく
家をさがす心配がなく

赤く
青く
火のような文字もない

街角ごとに
慈愛のような古いガス灯に
火をつけて、

握手をすれば
すべて、善良な人々
すべて、善良な人々

春、夏、秋、冬、
順に　めぐり。

（一九四一）

看板없는 거리

停車場　플랫폼에
나렸을　때　아무도　없어、

kampanəŋnun Kəri

tʃəŋtʃadʒaŋ pülrætpome
naryəsül tæ a:mudo ə:psə,

다들 손님들뿐、
손님같은 사람들뿐、

집집마다 看板이 없어
집 찾을 근심이 없어

빨갛게
파랗게
불 붙는 文字도 없이

모퉁이마다
慈愛로운 헌 瓦斯燈에
불을 혀놓고、

손목을 잡으면
다들、어진사람들
다들、어진사람들

봄、여름、가을、겨울、
순서로 돌아들고。

〈一九四一・〉

ta:dül sonnimdülpun,
sonnim katün sa:ramdülpun,

tʃiptʃipmada kanpani ə:psə
tʃip tʃadzül künsimi ə:psə

palgake
pa:rake
pul punnün mundzado ə:psi

motunimada
tʃæ:roun hə:n kasüdünɕe
purül hyə:noko,

sonmogül tʃabümyən
ta:dül, ədzinsa:ramdül
ta:dül, ədzinsa:ramdül

pom, yərüm, kaül, kyəul,
su:nsəro toradülgo.